

科目名称：	日本語表現Ⅰ（幼児教育学科）	
担当者名：	三浦 哲志	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
日常生活のみならず将来の保育者としての就職においても必要不可欠な国語の知識と文章表現力を身につけることを目的とする授業である。高校までに学習した知識の再確認から応用的な内容まで幅広く取り扱う予定である。授業においては、知識・理論だけでなく実践を重視し、問題演習と作文の時間を多くとる予定である。それを通じて、知識の確実な定着と文章表現力の向上をはかりたい。毎回、確認のための小テストを行うので、受講者には欠かさず復習を行って欲しい。		
授業の達成目標・到達目標		
実社会、特に幼児教育の世界で働いていくために必要な文章能力や知識の獲得が目標である。具体的には、専門用語も含め語句を漢字で正確に表記でき、自分の意志を正確かつ適当な分量で表現できる状態を目指したい。		

基礎教育科目		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。		○
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)	80	10	10		100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
語彙力	漢字・熟語の知識が豊富で、水準の高い文章表現・言葉遣いができる。	漢字・熟語の知識が十分あり、大学生らしい文章表現・言葉遣いができる。	漢字・熟語の知識が今ひとつだが、及第点の文章表現・言葉遣いができる。	漢字・熟語の知識が足りず、文章表現・言葉遣いに課題がある。
論理性	段落分けが正確になされ、構成がしっかりしており、主張が明確である。	段落分けがなされ、構成があり、主張が伝わる。	段落分けはあるが、構成が不十分で主張があまり明確でない。	段落分けがなく、構成が不十分で、主張が理解できない。
独創性	独自の意見や提案、解決策が具体例と共に示され、独自性・具体性がある。	自分の意見や提案、解決策等がある程度示され、独自性が見られる。	独自の意見や提案はあまりないが、具体例が示され具体性がある。	具体性に欠ける内容の上、独自の意見や提案もあまりない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 授業の概要説明	授業において取り組んだ課題を復習し、小テストに備える	45分
第2回 文章の構成・要素、文体の統一	授業内において取り組んだ課題(文章の構成・要素、文体の統一)を復習し、小テストに備える	45分
第3回 原稿用紙の使い方、手紙の書き方	授業内において取り組んだ課題(原稿用紙の使い方、手紙の書き方)を復習し、小テストに備える	45分
第4回 作文演習	作文演習に備えて執筆するテーマとその材料を探しておく	45分
第5回 主語と述語	授業内において取り組んだ課題(主語と述語)を復習し、小テストに備える	45分
第6回 修飾語と被修飾語	授業内において取り組んだ課題(修飾語と被修飾語)を復習し、小テストに備える	45分
第7回 句読点、ダラダラ文	授業内に配付した課題(句読点、ダラダラ文)を復習し、小テストに備える	45分
第8回 敬語	授業内において取り組んだ課題(敬語)を復習し、小テストに備える	45分
第9回 敬語の実践練習	授業内において取り組んだ課題(敬語)を復習し、小テストに備える	45分
第10回 作文演習（グループワーク）	作文演習に備えて執筆するテーマとその材料を探しておく	45分
第11回 仮名	授業内において取り組んだ課題(仮名)を復習し、小テストに備える	45分
第12回 漢字	授業内において取り組んだ課題(漢字)を復習し、小テストに備える	45分
第13回 四字熟語、ことわざ	授業内において取り組んだ課題(四字熟語、ことわざ)を復習し、小テストに備える	45分
第14回 重複表現、慣用句	授業内において取り組んだ課題(重複表現、慣用句)を復習し、小テストに備える	45分
第15回 作文演習（グループワーク）	作文演習に備えて執筆するテーマとその材料を探しておく	45分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリントを復習することになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、80%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 授業内小テスト10%、授業内提出課題10%		
課題に対してのフィードバック		
授業内提出課題は添削コメントを付して返却する		
教科書・参考書		
教科書：『すぐに役立つ国語表現 第3版』（授業で毎回使用する）		